論　文

社会学入門：富永社会学批判を含んで，高田社会学を軸にして

山本　　努[1)]

1．はじめに

本稿は社会学入門のために書かれている[(1)]．富永社会学への批判を含み，古い高田社会学の学説を軸に作られている．このことは，今日において多少の新味をもつように思う．高田の社会学は今日，あまり顧みられることはないが，現代の社会学の土台に置いてもよい，非常に優れた内容を持つからである．

高田を「欧米の社会学論の焼き直し」「舶来の素材をつぎはぎし，…放言のしほうだい」（宮永，2011: 282）と酷評する者もいる．しかし，この言が正しいとは思えない．これについては，本稿の議論（高田による，ウェーバーの解釈と批判と改訂）をみて判断してほしい．たしかに，高田には，オリジナルな研究と，他人の学説を紹介，批判したものがある．この後者の仕事については，「外国の学者の説を日本語で，しかもきっちりと整理された形で読めたことは，私とって非常に幸いであった」と森嶋（1981: 179-180）は述べる．まことに妥当な評価と思う．高田の学説紹介，批判は「独特の高級「紹介・批判もの」」であり，「批判的読書録であり，後進者にとってはアイデアの宝庫である」（森嶋，1981: 180-181）と私も思うのである．

なお，拙稿「地域社会学入門―鈴木榮太郎の聚落社会の概念を基底において―」『現代社会研究』9号は本稿の続編である．両者を通読すれば，社会学入門，地域社会学入門が果たせるように意図している．また，本稿のサブタイトルにある富永社会学批判は，山本（2022: 2-21）で展開した．ただし，本稿に含む富永社会学批判はそこに書けなかった重要な論点にふれている．それは，「相互行為の累積が社会関係の本質に関与する」という富永の社会関係定義に関わる論点である（本稿11節）．これは，山本（2022: 13）でふれた，「社会関係の定義に持続性を持ち込む」という論点とならんで，富永の社会関係概念の2つの難点と思われるのである（山本，2023近刊）．

2．社会学のイメージ

さて，社会学は社会における人間の生活や行動を研究する学問である（山本，2016: 11）．たとえば，家族は社会の重要な一部だが，社会や時代によって大きく異なる．一例を戦前昭和期日本の都市（大阪，神戸）の家族を描いた，谷崎潤一郎の名作『細雪』を元に描いてみよう．ここに出てくる蒔岡家は，次のような家族である．

1．本家は養子の辰雄と鶴子の夫妻に「十四歳を頭に六人の子供，女中一人と子守一人」（谷崎，1983: 187-188）がいる．2．分家は同じく養子の貞之助（ていのすけ）と幸子の夫妻に七歳の娘の悦子が一人いる（谷崎，1983: 43）．3．貞之助の家には，18歳になる女中のお春がいる（15歳で奉公にきた）．他の女中もいる（谷崎，1983: 68; 781）．神戸（蘆屋）に住んでいる．4．鶴子（長女）と

[1)] 神戸学院大学現代社会学部現代社会学科

幸子（次女）には雪子（三女）と妙子（四女）という二人の妹がいる．雪子と妙子は30歳前後で，「いつの間にか婚期を逸して」（谷崎，1983: 14）独身である．5．雪子と妙子は，本家の辰雄と違って，「監督権を持たない」こともあって，「そう恐くない」（谷崎，1983: 21）貞之助の家にいることが多い．本来なら，本家に住むべきだが，分家の方が気が楽なのである．6．結婚は見合いが普通であり，縁談は「端の者がお膳を据えて，箸を取るばかりにしてあげなけりゃ駄目ですから」（谷崎，1983: 699）などという世話好きの人がいる．

以上，1から6のような家族や結婚は今日の日本にはほとんどないだろう．このような家族は，日本の伝統的家族で「家」とよばれるが[(2)]，家族ひとつとっても，社会や時代による違いは大きい．

ちなみに，『細雪』とほぼ同じ時代（正確には少し前の大正10年頃）の同じ神戸でも，下層社会の生活はまったく異なる．神戸の「貧民窟」に住んだ，賀川豊彦によれば，「貧民窟の生活はあまりに単調である．…趣味もなければ変化もない．女もなければ，恋もない．あるものは伝染病と，梅毒と，賭博と，喧嘩と，淫売と，殺人と，スリと，チンピラだけである」（賀川，2008（中巻）: 351）．その「貧民窟」の乞食のおつたは，「乞食をするに都合が善いように近所で借りて」「毎日身体の前後に赤ん坊二人をくくりつけて乞食に出るのが本業」である．その子の一人は「亭主の薬代に困って貰った」貰い子であった（賀川，2008（上巻）: 390-391）．当時，子どもを貰うと礼金（養育費）を貰えたのである．ただし，子どもを育てられない事例も多かった（隅谷，2011: 8，賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト実行委員会，2009: 15）[(3)]．

ここにあるのは，戦前日本社会の極めて大きい格差である．しかも，本当の格差はもっと大きい．神戸（須磨）の「成金」の「大きな邸宅」には，「ホテルとも見ゆるかくかくと電燈の灯った洋館が立っている」のである（賀川，2008（下巻）: 412-413）．

3．社会とは

前節のように書けば，何となく社会がイメージできるだろう．しかし，実は「社会」という言葉は日本人には難しい言葉である．元来の日本語にない，英語（society）からの翻訳語だからである．しかも，この社会という語は，ほとんど使われていなかった中国語から採っている（林，1966；宮永，2011: 56）．

さて，この英語のsocietyは幕末（慶応2〔1866〕年）の英和辞典では仲間，一致，交わりなどと訳されている（林，1966；蔵内，1978: 3-8）．この訳語は今日からみても味わい深い訳語である．

社会がどこにあるかと問われれば，われわれは，やや答えに窮するだろう．これが社会でなくて，政治ならば，政党，政治家，大統領，経済ならば我が家の経済状態，物価や株価，お札などという具合に，容易に思いつくにも関わらず，である．しかし，「仲間」がどこにいるかと問われると，いろいろ答えが浮かぶだろう．同窓の仲間，同郷の仲間，同業の仲間，同じ趣味の仲間，同じ宗教の仲間などという具合に，である（勿論，仲間はいないという答えもありえる）．また，「交わり」がどこにあるかと問われると，こちらもいろいろ浮かんでくるだろう．親子の交わり，友人との交わり，同僚との交わり，親分と子分の交わり，商店（会社）と顧客の交わりなどという具合に，である（こちらも，勿論，交わりはないという答えもありえる）．社会学が扱う「社会」のイメージはこのような「仲間」や「交わり」に近い．

ところで，先に社会という語は翻訳語だから日本人には難しいと述べた．しかし，実は，社会という言葉は，欧米人にも難しいのである．英国で刊行の百科辞典のSocietyの項目には，「社会

の概念を曖昧さのないように明確に述べるのは難しい（The society concept is difficult to formulate in an unambiguous manner）」（Brittan, 1989: 794）と書いてある．

そこで，英英辞書ではsocietyをどのように説明しているのか見ておこう．LongmanのDictionary of Contemporary English（2003: 1834）には，次のようにある（カッコの中は，筆者の訳）．

（1）PEOPLE IN GENERAL（普通の人びと）

（2）A PARTICULAR GROUP（法や組織や慣習などを共有している，特定の大きな集団）

（3）CLUB（似た関心や目的を共有するメンバーによる組織）

（4）UPPER CLASS（裕福で権力のある人びとの社交の集団）

（5）BEING WITH PEOPLE（他の人びとと一緒にいる時のこと）．

この説明は，幕末の英和辞典の「一致，仲間，交わり」という訳語にかなり近い．1，2は一致，3は仲間，4，5は交わりにおおよそ対応している[(4)]．

4．社会学，世態学

このような「社会」の学である社会学（Sociology）は明治時代に日本に入ってきた．日本でSociologyの講義の始まりは，明治11年（1878年）アメリカ人のフェノロサ（Ernest F. Fenollosa，1853-1908）による．彼の講義は「世態学」と訳されていた．フェノロサはハーバード大学を卒業して，東京大学文学部講師として26歳の若さで日本にやってきた（下出，2005: 143）．また，明治14年（1881年）に出た哲学事典である『哲学字彙（DICTIONARY OF PHILOSOPHY）』（井上哲次郎著）では，Sociologyを世態学と訳している[(5)]．

その1年後（明治15年（1882年））にスペンサーの『社会学之原理』（乗竹孝太郎訳）が出る．下出（2005: 17-18）によれば，この翻訳以降，社会学という名称が定着した．日本で最初の社会学講座の担当者は外山正一である（大道，1968: 122）．外山はこのスペンサーの翻訳本に序をよせて，次ぎのように書いている．「…政府の舵を取る者や，輿論を誘う人達は，社会学をば勉強し，能く慎みて軽率に，働かぬよう願わしや」（下出，2005: 19）．

ただし，明治17年（1884年）に井上哲次郎，有賀長雄著『哲学字彙（増補改訂版）』が出ているが，こちらは，「世態学　社会学」と二つの翻訳を併記している[(6)]．同じく，有賀長雄は明治16年（1883年）の著書『社会学』で「この書において講ずる学は，英名を「ソシヲロジー」と言い，ここに訳して社会学という．あるいはまた世態学とも言えり」（有賀，2007: 54）と記している．とはいえ，世態学では，世帯学つまり，家政学のように聞こえてよろしくない．それで，「社会学というのは，なんだかおかしいと思った」が，「…馴れてみれば，…外山博士が大学で創められた社会学の方が良いのであります」と井上は談話を残している（林，1928；宮永，2011: 58）．

このように今日，社会学という名称は定まったが，加藤（2018: 13-14）は世態学の方がよいという．「わたしはフェノロサの「世態学」という講座名は「社会学」よりもよかったとおもう．「世態学」ということばは「世の中のありさま」を研究する学問，といったほどのことだろうから，ずっとわかりやすいではないか．「社会」というからめんどうくさく，むずかしいことにきこえるが，「社会学」とよばれているものはしょせん「世間」についての学問ということである」．これは，一応，納得できる見解である．とはいえ，「めんどうくさく，むずかしい」社会という言葉もきちんと勉強しておくべきである．

5．社会のイメージ

このように社会は「むずかしい」言葉だから，社会学者はいろいろな方法で理解を試みた．それには，大体，５つ方法（社会の見方）がある（Brittan, 1989）．

（1）構造としての社会（Society as structure：社会構造論）

Society as structureとは，社会を社会構造（social structure）として理解する立場である．社会構造とは社会を構成する制度の連関のことである．たとえば，階層的地位（ex: 所得，権力，学歴など）と「生まれ」（ex: 生まれた家，民族，性別など帰属的地位）が結びついた社会と，結びつかない社会がある．これは2つの制度の連関（つまり，社会構造）が異なるのである．また，社会構造の重要性は「社会構造が我々の行動を方向づける（guide）ことにある」（Henslin, 2000: 81）．

（2）繰り返しの型としての社会（Society as recurrence：制度論）

Society as recurrenceとは，社会を制度（institutions）として理解する立場である．制度とは「社会が個人の行動に押しつけるプログラム」（Berger and Berger, 1972=1979: 82）のことである．家族が食卓でどこに座るかから，時の権力者の交替まで，社会には「正しい」とされるやり方がある．これが制度である．現代社会では少なくとも，家族，宗教，法，政治，経済，教育，科学，医療，軍隊の9つの社会制度がある（Henslin, 2000: 85-86）．

（3）矛盾としての社会（Society as contradiction：マルクス主義）

Society as contradictionとは，主にマルクス主義の立場である．社会の土台（base：下部構造）には生産関係をめぐる敵対関係があり，今ある社会はそのかりそめの解決（tentative solution），つまり，上部構造（superstructure）にすぎない．したがって，社会は矛盾や緊張の解決に向けて絶えず変化する．つまり，社会は静止的（static）なものではない．さらには，社会は，平和的，調和的に穏やかに進歩するものでもない．

（4）文化としての社会（Society as culture：観念論）

Society as cultureとは，観念論の立場である．社会に共有される理念（ideas）や価値（values）を強調する．ウェーバーやパーソンズの立場だが，矛盾を土台とみるマルクス主義とはまったく異なる．社会はメンバーによって共有された理解（the shared understandings）が基盤にある．路面標示の「トマレ」が「トマト」になっていれば，社会が混乱するのは，その証拠である（資料1）．つまり，人間は言語的･象徴的世界（linguistic and symbolic universe）に住んでおり，社会の基盤はそこにある．

（5）過程としての社会（Society as process：社会過程論）

Society as processとは，人々の相互作用の過程として社会を理解する立場である．ミードやゴッフマンの立場である．Society as structure（社会構造論）と対極の見方であって，人々が積極的に構造を作ることが強調される．社会は，人々の交渉（negotiation）や自己と他者の相互作用（self-other）や反省･再帰性（reflexivity）によって成り立つのである．いいかえれば，社会は人々が受け入れたり（accept），確認したりして（confirm）成り立つのである．

路面標示の「トマレ」が「トマト」に！？　広島の市道交差点

6/1(水) 7:36 配信 111

中國新聞 デジタル

「トマト」に変えられた路面表示
（広島市南区提供）

広島県広島市南区翠の市道交差点で、一時停止を求める路面の標示が「トマト」とされるいたずらがあった。区によると、アスファルトを舗装後、テープで仮に「トマレ」と貼っていたが、何者かが「レ」を「ト」に変えたという。区は「事故につながる恐れがあるのでやめてほしい」と呼びかけている。

【写真】「トマレに」戻った路面標示。一部変更も…

区維持管理課によると、現場では21日、市内の業者が路面を舗装して仮のテープを貼っていた。30日午前10時ごろ、いたずらに気付いた住民が同課に連絡。広島南署員が「トマレ」に戻した。

再発防止のため同課は31日、さらに「止マレ」に変更。当初は6月2日に塗料を使って「止まれ」とする予定だったが、今回のいたずらを受けて1日早めるという。

同課は「一時停止の標示は事故が起きやすい場所に設けている。単なるいたずらでは済まされない」と警告している。

中国新聞社

24　62　22

記事に関する報告　学びがある　わかりやすい　新しい視点

資料１　中国新聞デジタル記事（2022年６月１日）
https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/171066

6．社会のイメージのタイポロジー

前節では，5つの社会の見方を示した．これらの大きな違いは，ひとつは，「矛盾としての社会」という見方を採るか，そうではないかである．これは，マルクス主義と，それ以外の立場という軸である．社会学には，マルクス主義とそうでない立場がある．

もうひとつは，社会を「過程として見る（社会過程論）」か，「構造として見る（社会構造論）」か，という軸である．この軸を絵にすれば，図1のようである．図1の下の絵は，アメリカの社会学者のブルマーの立場を解説している．ブルマーは社会を「過程として見る」シンボリック相互作用論の立場を代表する社会学者である．

この図1の下に描かれた人間は社会状況を自分で解釈して，行動する．つまり，ここに描かれた人間は受身的な存在ではない．それをブルマーは自己との相互作用（self-interaction）とか，

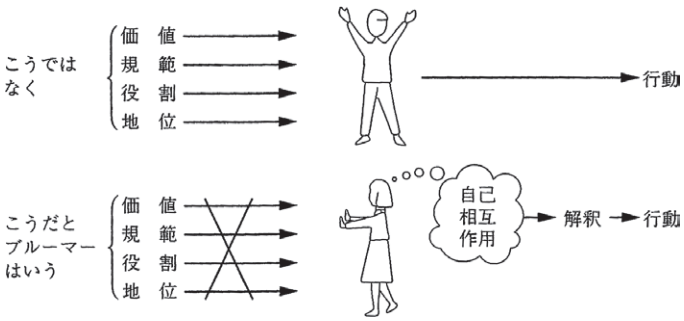

図１　ブルーマーは個人をどうみるか
出典）Wallace and Wolf (1980=1986: 302).

自己への呈示（self-indication）とよぶ．「シンボリック相互作用論の立場からすれば，社会組織とは，活動単位（人間）がその内部で行為を作り出すための枠組みである．「文化」「社会システム」「社会成層」「社会的役割」といった社会構造の要素は，行為の条件を設定はしても，それを決定はしない」（Blumer, 1969=1991: 113）と考えるのである．いかにも「自由な」アメリカらしい社会学の構図である．

ただし，ブルマーの構図は「自由な」アメリカだけの話しではない．たとえば，日本の詩人，金子光晴の詩をみたい．「…なにしに生まれてきたと問われれば　躊躇なく答えよう，反対しにと．…反対こそ，生きていることだ．反対こそ，じぶんをつかんでることだ」（資料2）．ここにあるのは，社会過程論の代表的社会学者，ゴッフマンの観察した人間に非常に近い．

一九一七年頃の詩

反　対

僕は、少年の頃
学校に反対だった。
僕は、いままた
働くことに反対だ。

僕は第一、健康とか
正義とかが大嫌いなのだ。
健康で、正しいほど
人間を無情にするものはない。

むろん、やまと魂は反対だ。
義理人情もへどがでる。
いつの政府にも反対であり
文壇画壇にも尻をむけている。

なにしに生れてきたと問われれば
躊躇なく答えよう、反対しにと。
僕は、東にいるときは
西にゆきたいとおもい、

きものは左前、靴は右左。
袴はうしろ前、馬は尻をむいて乗る。
人のいやがるものこそ、僕の好物。
とりわけ嫌いは、気の揃うということだ。

僕は信じる。反対こそ人生で
唯一の立派なことだと、
反対こそ、生きていることだ。
反対こそ、じぶんをつかんでることだ。

資料２　金子光晴の詩
出典：金子（1967: 9-10）．

ゴッフマンは，もっとも自由が拘束される社会施設の被収容者の生活を研究した社会学者である．このような施設をゴッフマンは全制的施設（total institution）とよぶが[7]，この研究での重要な結論は，つぎのようである（Goffman, 1961=1984: 315-317，以下の引用内の（）内は訳者による）．

1,「施設の掌中から自己自身を何程かでも確保しておこうという試みは，精神病院や刑務所…ばかりでなく，…全制の程度の低い施設においてさえ認められる…．私は，この種の頑強な抵抗は…自己に本質的な構成要素をなしていると主張したい」．

2,「社会的役割や社会的相互行為を…よく観察してみたら，当該集団による（個人の）絡み取りembracementだけが…目に映ずる一切…ではない．われわれが常に見るのは，個人は自己自身と彼がそれと一体のはずと他者の想定しているものとの間に，一定の距離すなわちいくらかの自由な（行動の）余地を保つためにいろいろ工夫を凝らしているという事実である」．

3,「帰属するものを何ももたずには，われわれは確固たる自己をもてない．しかるに何らかの社会的単位への全面的な傾信と愛着は一種の自己喪失selflessnessでもある．…われわれの（社会的）地位が世界の堅固な構築物に裏づけられているとすれば，われわれの個人的アイデンティティの意識は往々にして，その世界の様々な亀裂を住処としているのである」．

ここにゴッフマンが示す人間は，「僕は，少年の頃　学校に反対だった」（資料2）と書く詩人にうりふたつである．「学校」が全制的施設の性格を持つのはいうまでもない．

これに対して，中国人社会学者の費（1985: 5）の言明はブルマーやゴッフマンとまったく異なる．「西洋の子供は親をファースト・ネームで呼ぶこともできるのに，中国の子供にはそんなこと

は考えられもしない」．ここにあるのは，社会構造による想像力や行動への制約である（「そんなことは考えられもしない」）．ここでは，「社会構造は我々の行動を支配（guide）している」（Henslin, 2000: 81）．このようなわけで，社会構造論の立場（図1の上の絵）も充分リアリティがある．

このリアリティの理解のために，「構造として社会を見た」事例を1つ紹介しよう．幕末に咸臨丸で亜米利加（アメリカ）に行った勝海舟の回顧録である．「ここにおかしな話しがある．…おれが始めて亜米利加へ行って帰朝した時に，御老中から「其の方は一種の眼光をそなえた人物であるから，定めて異国に渡りてから，何か目をつけたことがあろう．つまびらかに言上せよ」とのことであった．そこでおれは，「人間のすることは，古今東西同じもので，亜米利加とて別にかわったことよりはありません」と返答した．ところが，「さようではあるまい，何かかわったことがあるだろう」といって，再三再四問われるから，おれも，「さよう，少し目につきましたのは，亜米利加では，政府でも民間でも，およそ人の上に立つものは，みなその地位相応に怜悧でございます．この点ばかりは，まったくわが国と反対のように思いまする」といったら，御老中が目を丸くして，「この無礼もの控えおろう」と叱ったっけ．ハ…」（勝，1978: 145-146）．

これは，「おかしな話し」でもあるが，地位の高さと怜悧さ（能力，賢さ）が結びついているアメリカの社会構造と，そうでない幕末日本の社会構造との対比を話している．社会構造というアイデアを知っていれば，勝の話しは社会構造についての話しでもあると理解できる．このように，社会構造という概念は，社会の比較に役に立つ．

練習問題・・・図1の2つの絵をみて，それにあてはまる自分の行動や人々の行動を挙げてみよう．

7．5つの社会のイメージとその基盤

さて，5つの社会のイメージは，「過程としての社会」Society as process（社会過程論）と「構造としての社会」Society as structure（社会構造論）を両極とする軸上のどこかに位置づけられる．Society as recurrence（制度論）はSociety as structure（社会構造論）に近く，Society as culture（観念論）はSociety as process（社会過程論）に近い．Society as contradiction（マルクス主義）はSociety as structure（社会構造論）に近い（図2）．これらは5つの社会の見方は，相互に補い合い，協力して，社会の理解を豊かにする関係と理解すべきである．

そして，これらの5つの社会の見方もそれを生み出した社会との対話の産物と見るべきである．これに関連して，パレート（1900=1975: 103-104）の以下の文言は味読すべきである．「社会主義者をつくり出したのはマルクスによって書かれた本ではない．マルクスの本を有名にしたのが，他ならぬ社会主義者たちなのである．18世紀末に懐疑主義を生み出したのはヴォルテールの本ではなかった．ヴォルテールの著作に名声を与えたのが，他でもない懐疑主義者なのである．…ヴォルテールと百科全書派の人びとは，フランスの上流階級にまんえんしていた感情を，ある選択された形式に基づいて表現することによって，この感情に新たな活力を与えたのである．マルクスについても同様の観察が必要である」．社会の見方と社会の関係は相互浸透的なのである．これは，社会学（社会の見方）も社会の一部であるから当然のことでもある．

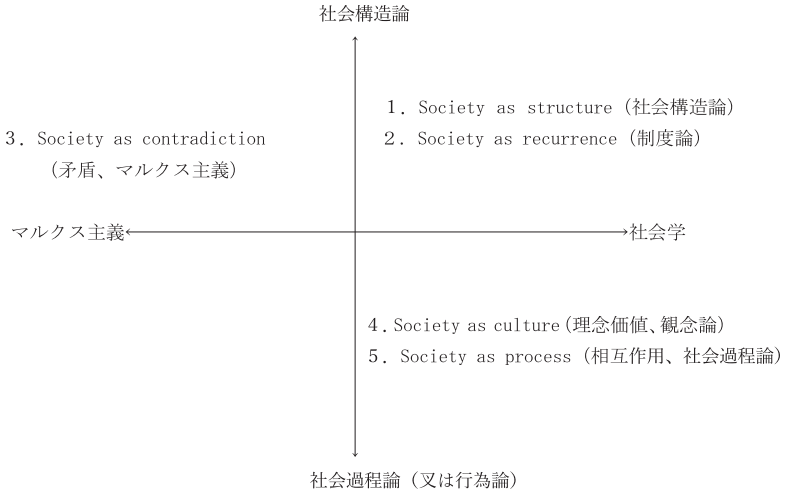

図２　社会学の社会のイメージの類型
注：カッコ内は，社会を見るの重要な着眼点.

8．抽象的意義の社会

以上，5つの社会の見方を紹介したが，このままでは，社会を捉えるにはいささか茫漠としている．社会学は「世の中のありさま」(加藤，2018: 13-14) を研究する学問である．したがって，世の中のありさまや，そのなかでの我々の暮らしを具体的に把握する方法や概念が必要である．とりわけ，我々の暮らしを把握する方法は重要である．「世の中のありさま」は茫漠としてあまりに広いので，これをそのまま，総体的に把握するのは不可能だからである．具体的に捉えることができるのは，われわれの暮らしの限られた側面である．たとえば，家族の夫婦関係とか，地域住民の動きとか，職場の労働実態とかである．

そこで，高田 (1922) にしたがって，社会は「抽象的意義の社会」と「具体的意義の社会」と２つの水準があるとの立場にたとう (図3)．「抽象的意義の社会」は社会本質論 (社会とは何ぞやの思弁) の領域である．高田の社会本質論は「望まれたる共存」という学説だが，「社会とは…それは人人の結びつき又は結びつける人人である．人人の集合または一まとまりが相互に交渉をもたぬならばそこには社会はない，交渉があってもそれが敵対であるときも社会はない．相互の交渉即ち関係が結びつきであるときに，そこに社会があるという」(高田，1922: 3)．つまり，「複数の人々」＋「結びつき (結合)」＝「社会」と高田はみる．「複数の人々」が単に物理的にそこにいても，社会にはならない．「人人の集合…が相互に交渉をもたぬ」とは，そういう状況である．そして，

1.「抽象的意義の社会」(望まれたる共存＝結合)
2.「具体的意義の社会」
2-1.　集団の意識をともなうもの (狭義の社会) →例：会社，家族
2-2.　集団の意識の伴わざるもの (社会関係) →例：友人相互，商人と顧客

図３　高田の社会 (1992年見解)
出典：高田 (1922: 99-100) より．「望まれたる共存」は山本 (2022: 8-9) に解説した.

この人々が，結びついて，はじめて社会がある．

ここで結びつき（結合：human associations）とは，「相互の離れがたさ」（高田，1952: 26）のことである．この「離れがたさ（結合）」には，dearとよびかけるような親愛の情や愛着の「離れがたさ」と，相手から何かが得られるという依存ないし利益の「離れがたさ」がある．前者を愛着の結合（直接結合），後者を利益の結合（間接結合）と高田（1952: 26）はよんでいる．

9．相互作用（又は相互行為）と社会関係（仲）

前節に示したように，「相互の交渉即ち関係が結びつきであるときに，そこに社会がある」（高田，1922: 3）．つまり，「複数の人々」が「結び」ついて（結合して）「社会」になる．しかし，「相互の交渉」（以下，相互作用または相互行為（interaction）という用語を使う）とはそもそも何だろうか．さらには，相互作用はイコール「関係」であろうか．これについて考える時，高田はたとえば，「親子が抱き合って喜んでいる」「親しみあっている」というのは相互作用の代表であるという．ここには相互作用の例示はあるが，定義がない（高田，1952: 7-8）．

では，相互作用とは何であろうか？　相互作用は社会学の基本用語のはずだが，明確に定義した文献はほとんどない．その貴重な定義の1つがホマンズの定義である．ホマンズによれば，相互作用とは「ある人の活動が誰かの活動の後に引き続いてに起こることである．あるいは，他者の活動によって刺激されること」（Homans, 1951: 36）と定義される[(8)]．たとえば，鋸の両端にいる2人の男が丸太を挽いているとする．一方の男が鋸を押したあと，他方の男が鋸を押す．ここにあるのは，もっとも単純な相互作用の事例である（Homans, 1951: 36）．

さてこのような相互作用は「それは時間の流れの中で生滅する」（高田，1952: 7）．つまり，一定の時間のなかで相互作用があったり，なかったり（生滅）する．上の例なら，丸太が切り終わったら，相互作用は終了である．「親子が抱き合って喜んでいる」という相互作用ならば，親子が寝てしまったら，終了である．しかし，親子が寝てしまっても（親子の相互作用が中断しても），親子はある．では，寝ている間も，親子を存続せしめているのは，何なのか？　これをさらに大規模にいえば，国民全員が熟睡していても国家はある．国民が寝ていても国家を存続せしめているのは何なのか．ここに，社会関係という概念の必要な理由がある（高田，1952: 7）．

相互作用がなくても（寝ていても），社会（家族や国家…）はあるという見込みは，社会の根幹である．これを，ウェーバー（1922=1972）や高田（1952: 8；1926: 240）は社会関係と考える．では，社会関係とはどのような概念だろうか．ウェーバーによれば社会関係（social relationship）とは「意味内容が相互に相手を目指し，それによって方向を与えられた多数（複数）の人々の行動のこと」である．ただし，これには重要な付加がある．「社会関係というのは，明らかに意味内容が相互に相手を目指しているような行為がかつて行われたことがあり，現に行われつつあり，やがて行われるであろう，その可能性に外ならない」（ウェーバー，1972: 42-43）のである．ここにおける，可能性（probability：確率）という付加は，非常に重要である．つまり，社会関係は可能性（ないし確率）としてある概念である．これは相互行為と明確に異なる．

たとえば，社会関係の一つの友人関係は「私はあなたと友人である」と思い，「あなたも私と友人であると」と思うという相互の意味付けによる行為が行われる可能性（ないし確率）のことなのである．この可能性がゼロの時には，友人関係（社会関係）はない．いいかえれば，友人としての行為が今，（例えば，睡眠中で，ご無沙汰で，絶交中で）行われていなくても，友人としての行為

が起こる可能性があれば，そこには，友人関係（社会関係）はある．

このウェーバーの社会関係の把握は卓見である．ただし，このウェーバーの社会関係概念には，「ただ可能というだけで人びとの態度気持が示されない」と，高田（1952: 7）は不満を述べる．これも鋭い指摘である．そこで，高田は社会関係とは，「仲」のことだという．「仲がいい」とか，「仲が悪い」というのは，個々の相互行為のみを指すのではない．会わない時にも「仲」はあって，「仲がいい」（または，「仲が悪い」）のである．高田（1952: 8）は，この社会関係，「仲」を「相互にある作用をしようとする相互的用意である，又相互的準備である」と規定している．あるいはもっと簡潔に「社会関係は人々の間の用意である」（高田，1926: 240）という．具体的には，「楠正成と足利尊氏との関係は互いに機会さえあらば相手を討ち滅ぼそうとする相互の用意である，恋人同士の関係は事情の許す限り自己の熱愛を表示し又相手から同様なる愛情のしるしを待設くる用意である」（高田，1926: 240）．

ただし，この「用意」はきわめて広義のものであり，明瞭に意識されていない場合もある．「たとえば私がある事務に没頭しながら友人を忘れている間にも，又は眠っている間にも，若し此友人と会うならば気持ちよく彼を迎え愉快に物語を取り交わすだけの準備が意識の奥底にある」（高田，1926: 240）．このような意味での「準備」を含むのである．この場合，「準備」（又は「用意」）は，いわば意識の背景（奥底）にある（高田，1926: 240-241）．そして，「世上の多くの関係は大抵かう云う状態」にある（高田，1926: 243-244）．

本稿では，社会関係をこのように，ウェーバーと高田にしたがって，理解しておく．社会関係（＝「仲」）がなければ社会はない．かくて社会関係は，非常に重要な概念である．

練習問題・・・高田（1926: 52）は「私は家族の成員四散したる時，相互作用なし，而もそこに社会は存続するとなした」．なぜ，このように言えるのだろう．高田の『社会関係の研究』「第2章　社会の本質に関して（銅直學士に答う）」を読んで考えてみよう．ここで，銅直は高田の「望まれたる共存」（本稿8節）にも鋭い批判を展開して，高田の応答も面白い．両者の主張をよく考えてみよう．

10．具体的意義の社会

次に「具体的意義の社会」には，「集団の意識をともなうもの」と「集団の意識の伴わざるもの」がある（図3）．前者を「狭義の社会」，後者を社会関係とよぶこともある．「集団の意識をともなうもの」（狭義の社会）とは，「個人対個人の結合を含みはするが，それ以上に，一集団の意識を伴い，個人はこれと相結合する」ものである．具体的には，会社，学会，家族，同業者，階級などがそれである（高田，1922: 99）．「集団の意識の伴わざるもの」（社会関係）とは，「個人的結合以上に何物もないのを常とする」ものである．具体的には，友人相互，商人と顧客などがそれである．

このように捉えると，社会とは「狭義の社会」と社会関係の総体ということになる．これを全体社会とよぶ．全体社会とは，「結合の網の目の自足的封鎖的組織」（高田，1922＊: 72）と定義される．自足的封鎖的組織とは，その範囲でその社会の人々の生活のすべてが完結しており，必要なものがすべて調達できる社会ということである．勿論，グローバル化している現代だから，完全

に自足的封鎖的な社会はないのだが，一応のまとまった全体社会はある．日本社会やアメリカ社会や中国社会といったまとまりがそれである．ずっと昔だったら，ほぼ完全な全体社会があっただろう．『魏志倭人伝』の卑弥呼のいた邪馬台国や，『古事記』のヤマトタケルノ命（ミコト）が「征伐」に行った熊襲（女装して，宴会の場に潜入して王を殺害した）や出雲（だまして親友になって，偽の剣をもたせて決闘して出雲の英雄を殺害した）はその事例である．

この全体社会は，「三重の結束結合としてあらわれる．全員社会ともいうべき国家，時として民族が之を統一する．而も同時に個人と個人との結合は網の目の如く連なりていはば微分的結合を形成する．その上に各の集団は社会の異なれる範囲をそれぞれ一まとめに結束する」（高田，1947: 50）．したがって，全員社会（国家など），集団，微分的結合といった部分社会のすべてを含む社会が全体社会である．つまり，全体社会とは，「国家をこえ，これを含むところの」「社会のすべて」（society in its totality）を意味するのである（高田，1922: 164-165；高田，1952: 44）．

社会学は「世の中のありさま」（加藤，2018: 13-14）を研究する学問であると先（4節，8節）に述べた．この「世の中」とよばれるものが，全体社会である．「世の中」とは，国家とか家族とかの個々の部分社会（集団や社会関係）の総体をさすものだからである（高田，1952: 43-44）[(9)]．

11．集団社会，社会関係（集団外社会）

前節に見たように全体社会は所謂「世の中」であり，全員社会，集団，微分的結合の3つの結束結合として現れる（図4）．このうち，全員社会とは「国家という如き，成員のすべてを含む社会」である．集団とは「若干の紐帯によりて結束せられ個人相互の交渉とは異なり，一の全体乃至統一をなすものとして考えられる社会」である．微分的結合とは「個人対個人の結合にとどまるもの」である（高田，1947: 50）．

1，全員社会（国家など）2，集団　3，微分的結合（個人と個人との結合）

図4　高田の全体社会
出典：高田（1947: 50）より作成．

このうち，全員社会と集団は，集団の形をもつ集団社会，微分的結合は，集団の形をもたない集団外社会ともよばれる．集団社会は図3の「集団の意識をともなうもの（狭義の社会）」と，集団外社会は「集団の意識の伴わざるもの（社会関係）」とまったく同義である（図5）．

この社会関係（集団外社会）には繊維社会と機能聯関が含まれる（図5：図6）．社会関係は集団でなく，「個人と個人との結合であるから，個人の一方の意志により改廃自由」（高田，1952: 32）である．この改廃自由の要素が比較的強いのが繊維社会である．ただし，「改廃自由に見えても義

1，集団社会／狭義の社会・・・集団の形をもつ社会（積分的社会） ＝集団の意識をともなうもの（図3）
2，集団外社会／社会関係・・集団の形をもたぬ社会（繊維社会と機能聯関／微分的社会） ＝集団の意識の伴わざるもの（図3）

図5　高田の社会（1952年見解）
出典：高田（1952: 32, 42）より作成．

理，習慣，道徳などで規制」されており，それによって，規則性と永続性をもつことが多い（高田，1952: 42）．これに加えて，「利益で結ばれ，法律で拘束，監視されてもいる」(高田，1952: 42) 要素が比較的強いのが機能関連である．特に，法律などのフォーマルで強力な規制が見られるのが機能聯関である（図6）．

しかも，機能聯関は「万人の万人に対する結合，いわば社会的繊維網の中にあって，特に重要な部分」（高田，1952: 32）であり，「社会の機能とむすびついて客観的統一」のように現れるのである（高田，1952: 42）．国民経済などが典型だが，「すべての個人が自主的に行動し，而も個人的に相適応するわけであるが，この適応が社会の全体に亙って依存関係を作り，それによって社会の為のある機能が営まれる」のである（高田，1952: 32）．つまり，「社会の全体に亙っての依存関係」が，「社会の為のある機能」をはたしているのである．いいかえれば，「万人に対する万人の結合のうち，社会の機能と結びつけての客観的統一（のように思えるもの）」（高田，1952: 42 カッコ内は山本補筆）が機能聯関である．競争的経済（1952: 43）や，見えざる手による調和（高田，1952: 33-34）などがその例である（図6）．

1，繊維社会・・・友人，縁者，愛人，主従や道づれ，目を交わし合うはかなき交渉など，インフォーマルな規制．個人の改廃自由に見えるが，義理，習慣，道徳などによって，規則性と永続性をもつ．
2，機能聯関・・・商人と顧客（競争的経済，国民経済），政治（市民社会的社会），教育など，インフォーマルな規制もあるが，法律含めてフォーマルで強力な規制（拘束，監視）を含むこともよくある．「万人に対する万人の結合」による，社会全体にわたる依存関係よって，社会のある機能をはたす．

図6　高田の集団外社会（社会関係）
出典：高田（1952: 21; 32; 42）の文献より作成．図6は山本（2022: 10）の図序-10「高田の集団外社会」を改訂している．

12．機能聯関

前節でみた機能聯関は，ざっくり表現すれば，その社会の全員（ないし非常に多くの人々）が作り出している，ある特定の機能を担う，大きな社会の仕組み（ないし制度）である．富永（1986: 9）によれば，市場は「国民社会的規模において形成された経済交換関係である」．したがって，市場は機能聯関の典型（のはず）である．しかし，富永においてはそのように考えない．富永（1986: 9）によれば，市場は「持続的な社会関係を形成するとは限らないので準社会と見做す」べきとされるのである．準社会とは「社会の定義を十分にみたさない」（富永，1996: 89），「不完全な社会」（富永，1995: 16；19）のことである．はたして，市場は「不完全な社会」であるという理解でいいのだろうか？

ここで富永は，市場は「持続的な社会関係を形成するとは限らない」というが，富永の社会関係とはどのような概念だろうか．富永の社会関係は，以下のように定義されている．「相互行為が持続的―もちろん中断の時間は入ってよいが将来にわたって続くことが双方の行為者によって期待されている―である場合，自我と他者とのあいだには社会関係（上に傍点）が形成されている」（富永，1986: 111-112）．あるいは，「社会関係とは，人Aと人Bのあいだに相互行為がくりかえし行なわれ，その結果，今日会って一度別れても，明日か来週か来月か，ともかく将来ともおな同様な様式で相互行為が持続するのが当然という期待が当事者のあいだに共有されている状態のことである．相互行為は一回限りで，短時間に終了してしまうが，社会関係はそうでなく，長期にわ

たって持続する」（富永，1995: 16）.

つまり，富永の見解では，相互行為が「持続的で」「くりかえし行なわれ，その結果」社会関係が生まれるとされる．この相互行為が「持続的で」「くりかえし行なわれる」ことを相互行為の累積とよべば，富永の社会関係は，相互行為の累積の上にある．これは，具体的には，長いつき合い（相互行為）で，緊密な友人関係（社会関係）ができるような事例を想起すればよい．これが富永の社会関係の第1の特色である．

しかし，ウェーバーや高田の古典的な社会関係は，相互行為の可能性（ウェーバー），相互行為の相互準備（高田）が重要であって，富永の見解のように相互行為の累積は社会関係の本質に関与しない．大黒屋光大夫（江戸期鎖国時代の日本からロシアへの漂着民）とエカチェリーナ（ロシア皇帝）の間に相互行為の累積は皆無だが，社会関係はあって，大黒屋光大夫は女帝エカチェリーナに「礼服に身を包んで」「拝謁」している（井上，1974: 241-251；桂川，1990: 97）．これは，初対面の（したがって，相互行為の累積のない）スーパーのレジの店員とお客さん，つまり，市場での売買関係と同じであり，どちらも，社会関係である．かくて，市場は不完全な社会ではない．もうひとつ例をあげれば，「横断歩道を渡る歩行者」と「横断歩道の前で停車している車の運転手」には，「相互行為の累積」はないが，交通法規の体系という機能聯関に含まれる社会関係はある．これらは，集団外社会（社会関係）の機能聯関というタイプの正真正銘の社会の1つと考えるべきである（図5，図6）.

ただし実は，富永も相互行為の累積は社会関係の本質に関与しないと気づいていた．「相互行為をともなうことなしに，あるいは相互行為に先行して存在しえる社会関係として，血縁関係および地縁関係をあげることができる」（富永，1986: 152）と書いているからである．しかし，何故か，この気づきは，富永の社会関係の定義に反映されていない．ただし，今見たように，相互行為をともなわない（相互行為に先行して存在しえる）社会関係は，血縁関係，地縁関係にとどまらないのである．

ついで富永の社会関係の第2の特色は，「相互行為は一回限りで，短時間に終了してしまうが，社会関係はそうでなく，長期にわたって持続する」（富永，1995: 16）という社会関係の持続性の認識である．これについては，まず，ウェーバー（1922=1972: 44）の「社会的関係には，非常に一時的なものもあるし，永続的なものもある」という古典的規定を確認しておきたい．つまり，社会関係の持続性については，ウェーバーも高田も社会関係の定義に含めない．いいかえれば，社会関係は非常にはかない（非常に一時的な）ものも含む．恋愛関係は社会関係だが，（永遠の場合もあるが）非常にはかない場合もある．さらには，市場や売買関係はさらにはかない関係ともいえるが，高田やウェーバーに鈴木栄太郎を加えておくが，そこに社会関係のあることを認めている（図7）．すなわち，鈴木の言が端的だが，「合理の極としての売買は，その時その時の対等の立場で完了してしまう関係」であり，「未知の人の間の社会結合の形式として発展してきたもの」なのである（鈴木，1969: 410; 286）．これらウェーバー，高田，鈴木の把握と，富永の把握は根源的に異なる．ウェーバー，高田，鈴木では，市場や売買は社会だが，富永では「不完全な社会」であるからである．つまり，富永の社会関係は，ウェーバーや高田の古典的な社会関係と相当異なる概念になっている．しかし，富永が排除した持続性のない（はかない）社会関係はやはり社会学の認識には重要な範疇である．これを高田の用語では，微分的社会観というが，最後（12節）にそれを取り上げたい．

1，富永（売買行為）→不完全な社会である／「相互行為があっても，それが社会関係の形成にまでいたらないことが多い典型的な例」（準社会）の範疇.
2，鈴木（売買）→社会である／「合理の関係の極としての売買は，その時その時の対等の立場で完了してしまう関係」.「売買は未知の人の間の社会結合の形式として発展したもの」.
3，高田（商人と顧客）→社会である／「具体的意義の社会」で「集団の意識の伴わざるもの」（社会関係）の範疇，「繊維社会」でもあり，「機能聯関」でもある.
4，ウェーバー（市場交換（marktaustausch ／ economic exchange））→社会である／「双方の行為の相互関係（相互の方向付け）が少しでもあることが社会関係という概念の基準になる」．社会関係の範疇.

図7「売買行為」：富永，「売買」：鈴木，「商人と顧客」：高田，「市場交換」：ウェーバーの理解
出典：富永（1995: 16頁），鈴木（1969: 410; 286），高田（1922: 99頁），ウェーバー（1972: 42-45頁）より.

13．繊維社会と微分的社会観：むすびにかえて

社会関係（集団外社会）には機能聯関とならんで繊維社会がある．繊維社会は，友人，縁者，愛人，主従や道づれ，目を交わし合うはかなき交渉などが事例だが（図6），機能聯関にいたらない社会関係（集団外社会）である．したがって，繊維社会は，社会のほんの一部の人々の微かな結合である場合もある．しかし，その広がりは意外に遠くまで及ぶかもしれない．共通の友人，知人などを介して，人々の連鎖ができるからである．また，繊維社会は無数の組み合わせで人々を結びつけるが，その故に，意外に役立つものである[(10)].

とはいえ，繊維社会と機能聯関をくらべれば，繊維社会の重要性はやや副次的と考えるべきである．「社会の全体に互っての依存関係」が，「社会の為のある機能」をはたしている機能聯関にくらべて，ささやかな，部分的な世界であるからである．たとえば，車を運転するとき，相手の車と目と目や身振り手振りで相互作用（やり取り）することはしばしばある．最近，自動車運搬車両（トラック）が自動車販売会社にバックで入るために，片道の一車線の国道を塞いで，後続の私の車をしばらくの間，待たせたが，私を待たせたトラックの運転手は，無事，バックで自動車販売会社の敷地に入った時，私に向かって，頭を下げ，手を振った（私も応答した）．これは「目を交わし合うはかなき交渉」であり，繊維社会の一コマである．このような繊維社会のやり取りがなければ，交通秩序の維持は随分，困難なものになるだろう．法律で定められた全国一律の交通ルールは，機能聯関であり，交通秩序という社会生活の基盤にある．しかし，それを円滑に作動させるには，繊維社会は重要な役割を持っている．

このように集団から社会関係，社会関係の内では，機能聯関から繊維社会まですべてを重要と社会学では考える．言いかえれば，「国家，自治体，家族，教会，社会などの如く，身体の重要器官にあたるもののみならず，友人や道づれ，目を交わし合うはかなき交渉にいたるまで」すべてを社会として注目すべきという「微分的なる社会観」を現代の社会学は採るのである（高田，1952: 21）．なお先（8節，図3）に見た，友人相互，商人と顧客なども社会学の「微分的なる社会観」の実例である．

では何故，「微分的なる社会観」を現代の社会学は採るのだろうか？　それは先（11節）にも指摘したのだが，それこそが社会だからである．上記の友人や道づれや商人と顧客…などの結合は「個人と個人との結合であるから，個人の一方の意志により改廃自由」（高田，1952: 32）なはずである．しかし，それらは改廃自由に見えても義理，習慣，道徳などで規制されている．また，利

益の共通で結ばれ，さらには法律で拘束，監視されてもいる場合もある（高田，1952: 42）．つまりここにも厳然と社会はあって，「不完全な社会」（準社会）ではない．したがって，社会関係（集団外社会）は集団社会と同等の重みを持つのである（図5，図3）．

この結論は，「社会学を狭義の社会についての学」（富永，1986: 4）とした富永社会学の基本構想と大きく異なる．富永は図8のように「狭義の社会」と「準社会」を区別して，「狭義の社会」が社会学の主な領域とした．しかし，高田の社会（図5，図3）は，大きく異なり，富永の図8の「狭義の社会」（＝図5の高田の集団社会）も「準社会」（＝図5，図6の集団外社会）ともに同等の重みを持つ「社会」である．この高田の社会の把握が社会学の土台に妥当である[11]．

1，狭義の社会（＝「狭義の社会とは，複数の人びとのあいだに持続的な相互行為の集積があることによって社会関係のシステムが形成されており，彼らによって打ちと外とを区別する共属感情が共有されている状態」（富永，1986: 3）≒図5，集団社会）→家族，親族，組織，国家など（実例）
2，準社会（＝狭義の社会の定義を不完全にしか満たさない社会／「不完全社会」≒図5，図6の集団外社会）→国際社会，社会階層，市場，民族など（実例）

図8　富永の社会
出典：富永（1995: 18-19），富永（1996: 87; 92）も参照されている．

最後にこの妥当性の根拠を例示しよう．資料3は「親子と遊園地（公園）の職員」の写真である．高田の社会把握なら，親子（父親と子，写真は母親が撮っている）は集団社会であり，「遊園地の職員と親子」は集団外社会である．こちらは妥当な把握である．富永なら，親子は「狭義の社会」で，「遊園地の職員と親子」は準社会（不完全社会）となる．こちらはやはり歪んでいる．「遊園地の職員と親子」の間には，「相互行為の累積」も「社会関係の持続性」（12節，参照）もはないが，社会関係はあると考えるべきだからである．この親子とこの遊園地職員の社会関係は，たまたま遊園地に遊びに来た，この時一回きりのものである．それでも，ここにはウェーバー，高田，鈴木の理解（図7）ならば，社会（関係）はある．

資料3　親子と遊園地の職員（アリゾナ（米国）の小都市（Yuma）、2022年3月撮影）

さらにこの資料3はアリゾナ（米国）の遊園地での日本人家族と米国人（遊園地職員）の写真であり，国際社会の写真でもある．つまり，富永の準社会（不完全社会）の写真ということになる（図8）．国際社会はこの写真からすれば，売買と同じく，準社会と把握するのはやはり同じく歪んでいる[12]．ここにも社会（「仲間」，society幕末の英和辞典の翻訳，蔵内（1978: 3-8））がある（いる）からである．

練習問題・・・あなたが関わっている，集団，社会関係（機能聯関，繊維社会）をそれぞれ，いくつか挙げてみよう．

注釈

(1) 本稿は入門講義を意図しているので，専門の社会学研究者が読むと冗長に感じられる箇所があろうと思う．「練習問題」「自習のための文献案内」を付しているのもその意図である．また，太字で示したのは，入門講義で強調したい項目である．

(2) 家についての簡便な説明は福田（2022），原（2022）参照．

(3) ただし，ここの記述は賀川が住んだ「貧民窟」でも最下層の人々である．賀川の記録は1920年頃のものだが，彼の住んだ「貧民窟」は1910年時点で，人口7500人「仲仕に，土方に，手伝」，すなわち不熟練労働者が一番多い社会であった．その他，主な45種程度の仕事は，隅谷（2011: 29-30）に紹介されている．なお，1900年前後は，人力車夫，日雇い，紙屑拾い，芸人，乞食等が中心であった（隅谷，2011: 29-33）．

(4) 他の辞書（*The American Heritage Dictionary of the English Language: Fourth Edition*, Houghton Mifflin Company, 2000, p.1650）でもsocietyの説明を確認したが，Longmanの英英辞典と大体同じ説明であった．

(5)『哲学字彙』国立国語研究所の下記サイトからhttps://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjaldl/bunken.php?title=tetugakui

(6)『哲学字彙（増補改訂版）』は，国立国会図書館デジタルコレクションの下記サイトから全文閲覧できる．https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/994560/1
なお，井上哲次郎はフェノロサの論文を文学部4年生の時に「世態開進論」という題目で翻訳している．また，有賀長雄はフェノロサの弟子であった（下出，2005: 143-147）．井上哲次郎は内村鑑三の「不敬事件」で内村を論難した人物でもある（鈴木，1984: 62）．

(7)「全制的施設とは，多数の類似の境遇にある個々人が，一緒の，相当期間にわたって包括社会から遮断されて，閉鎖的で形式的に管理された日常生活を送る居住と仕事の場所」のことである．施錠された扉，高い塀，有刺鉄線などで普通，仕切られている．欧米には，盲人・老人などの収容所，精神病院・結核療養所，刑務所・強制収容所，兵営・寄宿学校，僧院・修道院の5種類の全制的施設がある（Goffman, 1961=1984: v; 4-5）．なお，ゴッフマンの社会の見方（演劇的見方）は，芥川龍之介の小説『手巾』に先取りされている（芥川，1990）．このことを鋭く指摘したのは岩本（2022: 54）である．ゴッフマンの著作にいきなりトライするのが少し厳しいなら，まず，岩本（2022），芥川『手巾』を読んでみるのもいいだろう．

(8) ここはホマンズの定義の骨格を取り出して，かなり意訳している．Homans（1951: 36）から正確な英文を示しておく．When we refer to the fact that some unit of activity of one man follows, or, if we like the word better, is stimulated by some unit of activity of another, aside from any question of what these units may be, then we are referring to *interaction*.
なお，もうひとつ安田（1981: 2）の相互行為（相互作用，社会的相互行為）の以下の定義がある．「社会的行為を…他者に影響を及ぼし，かつ／あるいは他者から影響を与えられつつ行う行為であるとするならば，2人（またはそれ以上）の行為者の間で，互いに相手を客体とする行為は，〈社会的相互行為〉（social interaction）と名づけてよいだろう」．ただし，この定義に含まれる「客体」は，安田（1980: 15）の目標客体，手段客体，条件客体を意味する概念である．このように安田の定義は，有益だが，やや煩雑である．したがって，本章では，ホマンズの定義を使いたい．

(9) 高田の全体社会の概念は幾つかの定義があるは，山本（2022: 9; 18-21）に紹介がある．

（10）玄田（2005: 193）によれば，「弱い紐帯」と訳されたweak tiesの存在が，日本での幸福な転職のためにも重要な役割を果たす」という．この知見はGranovetter（1995）から示唆を得ている．グラノヴェターは米国の研究で強い紐帯（いつも会う人）より，弱い紐帯（まれにしか会わない人）が，有益な転職情報を得るよい手段となっていることを示した．（強い紐帯も繊維社会ではあるけれど）弱い紐帯はまさに繊維社会らしい繊維社会である．

（11）もっとも最近に出た，社会学の入門書でも，このような富永の社会学の構想を推奨する書籍もある．たとえば，日本社会分析学会（2022: 18）などがそれである．ここでは，本稿の図8に示した，富永の「狭義の社会」の概念を引用して，「社会学とは，そうした意味での社会を研究する経験科学である」としている．ここからも，富永の影響力の一端は確認できるが，本書はこの立場とるものではない．

（12）「社会学を狭義の社会についての学」（富永，1986: 4）とした富永社会学の基本構想は，実は，富永自身が無理を感じている．富永の準社会は階層，民族，国際社会などだが（図8），これらは社会学の有望な研究領域である．したがって，準社会つまり「不完全社会もまた，社会生活における有意味な人間の集まりであると認められ，社会学の重要な研究対象をなしてきた．だから，それらを社会でないとして排除するのは，明らかに妥当でない」（富永，1995: 19）と富永自身が書かざるを得ないのである．これを認めてしまえば，富永の社会構想は，ほとんど高田の社会構想に等しくなる．このあたりのもう少し詳しい理路は，山本（2023 近刊；2022: 6-7）を参照願いたい．

参考文献

芥川龍之介（1990）『大導寺信輔の半生・手巾・湖南の扇 他十二篇』岩波文庫.

有賀長雄（2007）『日本最初の社会学史』いなほ書房.

Berger, P. L. and B. Berger (1972) *Sociology: A Biographical Approaach*, Basic Books.（=1979，安江孝司ほか訳『バーガー社会学』学研）.

Blumer, H. (1969) *Symbolic Interactionism*: Perspective and Method, Prentice-hall.（=1991，後藤将之訳『シンボリック相互作用論―パースペクティブと方法―』勁草書房）.

Brittan, A. (1989) Society. In A. Kuper and J. Kuper (ed.) *The Social Science Encyclopedia*, Routledge: 794-795.

大道安次郎（1968）『日本社会学の形成―九人の開拓者たち―』ミネルヴァ書房.

費考通（Fei Hsiao Tung）（1983）*Chinese Village Close-Up*, New World Press.（=1985，小島普治ほか訳『中国農村の細密画―ある村の記録　1936 ～ 82―』研文出版.

福田恵（2022）「農村社会を支える「家」と「村」」山本努編『よくわかる地域社会学』ミネルヴァ書房：94-97.

玄田有史（2005）『仕事のなかの曖昧な不安―揺れる若年の現在』中公文庫.

Goffman, E. (1961) *Asylums: Essays on the Social Situation of Mental Patients and Other Inmates*, Doubleday & Company（=1984，石黒毅訳『アサイラム―施設被収容者の日常生活（ゴッフマンの社会学　3）』誠信書房.

Granovetter, Mark S. (1995) *Getting a job: a study of contacts and careers*, University of Chicago Press,（1998=渡辺深訳，『転職―ネットワークとキャリアの研究』ミネルヴァ書房.

原珠里（2022）「「いえ」の中の女性の位置」山本努編『よくわかる地域社会学』ミネルヴァ書房：144-147.

林恵海（1928）「東京帝國大學社会學研究室創立二十五周年記念會記事」『社會學雜誌』第48巻：86-93.

林恵海（1966）「邦訳「社会」考」『東京女子大学付属比較文化研究所紀要』第21巻：65-111.
Henslin, J. M. (2000) *Essentials of Sociology: A Down-to-Earth Approach*, Allyn And Bacon.
Homans, G. C. (1951) *The Human Group*, Routledge & Kegan Paul.
井上哲次郎（1881）『哲学字彙』東京大學三學部.
井上哲次郎・有賀長雄（1884）『哲学字彙（増補改訂版）』東洋館.
井上靖（1974）『おろしあ国酔夢譚』文春文庫.
岩本茂樹（2022）『「コミュ障」のための社会学―生きづらさの正体を探る―』中央公論新社.
賀川豊彦（2008）『死線を越えて（上巻，中巻，下巻）』今吹出版社.
賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト実行委員会（2009）『劇画　死線を越えて―賀川豊彦がめざした愛と共同の社会―』家の光協会.
金子光晴（1976）『金子光晴詩集（茨木のり子編）』彌生書房.
加藤秀俊（2018）『社会学―わたしと世間―』中公新書.
勝海舟（1978）『氷川清話（日本の名著32　勝海舟）』中央公論社.
桂川甫周（1990）『北搓聞略―大黒屋光太夫ロシア漂流記』岩波文庫.
蔵内数太（1978）『蔵内数太著作集（第1巻）』関西学院大学生活共同組合出版会.
宮永孝（2011）『社会学伝来考―明治・大正・昭和の日本社会学史―』角川学芸出版.
森嶋通夫（1981）「誠実の証としての学問」高田保馬博士追想録刊行会編『高田保馬博士の生涯と学説』創元社：172-192.
日本社会分析学会監修（2022）『生活からみる社会のすがた―シリーズ生活構造の社会学①』学文社.
Pareto, V. (1900) *Un applicazione di teorie sociologiche*（=1975. 川崎嘉元訳『エリートの周流―社会学の理論と応用―』垣内出版）.
Pickett, J. P., (ed.) (2000) *The American Heritage Dictionary of the English Language: Fourth Edition*, Houghton Mifflin Company.
下出隼吉（2005）『明治社会学史資料』いなほ書房.
隅谷三喜男（2011）『賀川豊彦』岩波書店.
鈴木栄太郎（1969）『都市社会学原理（著作集VI）』未来社.
鈴木範久（1984）『内村鑑三』岩波書店.
高田保馬（1922）『社会学概論』岩波書店（＊高田（2003）『社会学概論』ミネルヴァ書房）.
高田保馬（1992*）『社会と国家』岩波書店.
高田保馬（1952）『社会学』有斐閣.
高田保馬（1947）『世界社会論』中外出版.
高田保馬（1926）『社会関係の研究』岩波書店.
谷崎潤一郎（1983）『細雪』中公文庫.
富永健一（1986）『社会学原理』岩波書店.
富永健一（1995）『社会学講義』中公新書.
富永健一（1996）『近代化の理論』講談社学術文庫.
山本努（2016）『現代の社会学的解読（新版）―イントロダクション社会学―』学文社.
山本努（2022）「地域社会学の必要性」山本努編『よくわかる地域社会学』ミネルヴァ書房：2-21.
山本努（2023　近刊）「準社会は不完全な社会なのか？―社会の基本認識をめぐって，売買行為を事例

として，富永健一，高田保馬，鈴木栄太郎，マックス　ウェーバーの学説の評価」神戸学院大学現代社会学会編『現代社会の探究―理論と実践』学文社.

安田三郎（1980）「行為の構造」安田三郎・塩原勉・富永健一・吉田民人編『基礎社会学　第1巻　社会的行為』東洋経済新報社：2-28.

安田三郎（1981）「相互行為・役割・コミュニケーション」安田三郎・塩原勉・富永健一・吉田民人編『基礎社会学　第1巻　社会的行為』東洋経済新報社：2-28.

Wallace, R. and A. Wolf (1980) *Contemporary Sociological Theory*, Prentice-hall.（=1986. 濱屋正男ほか訳『現代社会学理論』新泉社）.

ウェーバー, M.（1972）清水幾太郎訳『社会学の根本概念』岩波文庫（Weber, M. *Soziologische Grundbegriffe*）.

Weber, M. (1978) *Economy and Society 1*, University of California Press.

自習のための文献案内

1. 加藤秀俊（2018）『社会学―わたしと世間―』中公新書.
2. 高田保馬（2003）『社会学概論（高田保馬・社会学セレクション3）』ミネルヴァ書房.
3. ウェーバー，M.（1972）清水幾太郎訳『社会学の根本概念』岩波文庫.
4. ギデンズ，A.（2009）松尾精文他訳『社会学（第5版）』而立書房.
5. コリンズ，R.（2013）井上俊・磯部卓三訳『脱常識の社会学（第2版）―社会の読み方入門』岩波現代文庫.
6. 見田宗介（2006）『社会学入門―人間と社会の未来―』岩波新書.
7. 見田宗介（2006）『現代社会はどこに向かうか―高原の見晴らしを切り開くこと―』岩波新書.

社会学の入門書は多い．①は社会学をコンパクトなサイズで自由自在に語ってくれる好著．②は日本社会学のオリジナリティを示す社会学概論書の古典．気合いを入れて取り組みたい．③は薄い書物だが，こちらも気合いを入れて取り組みたい．文字どおり，社会学の根本のアイデアを示す古典．④は英国の碩学による，大好評のテキストブック．丁寧な解説で社会学を広く深く学べる．⑤は米国の碩学による入門書．コンパクトだが，社会という謎の中核まで読者を連れて行ってくれる．⑥⑦は見田宗介氏の著作だが，氏の書物で社会学に入った者はとても多い．まったくの初学者なら，①⑤⑥⑦（順不同）から読んで，その後，②③④（順不同）と，読み進むといいだろう．